

山行報告書

報告書作成

2011年12月31日

山名 [山域]	大日ヶ岳	目的と方法	雪上訓練
登山期間	12月17日、18日	山行形態	1泊2日(テント泊)
参加人数	5名		

行動記録

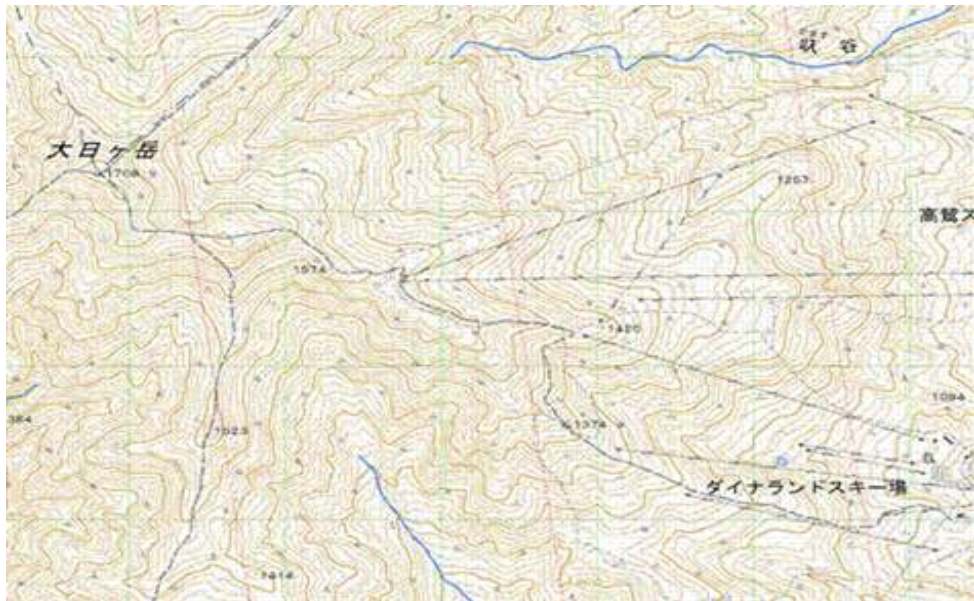
1日目

岡崎市民病院駐車場(05:00)⇒岡崎IC(05:10)⇒ぎふ大和(チェーン着、休憩)(06:45-07:05)⇒高鷲IC(07:30)⇒コンビニ⇒高鷲スノーパーク駐車場(07:40-08:10)⇒グレンデ前(集合)(08:30)⇒休憩(11:30-11:45)⇒大日岳山頂(12:20) * テント設営 * 訓練開始(13:30) 雪上歩行 ビーコン捜索 訓練終了(16:00) * 夕食 * 就寝(21:00)

2日目

起床(05:00) 訓練開始(07:00) * 滑落停止 埋没訓練 弱層テスト 防風壁 * 撤収(12:00)⇒ Gondola 降り場⇒高鷲スノーパーク駐車場(13:35-13:50)⇒湯の平温泉(14:00-15:10)⇒白鳥IC(15:15)⇒美濃加茂SA(16:00-16:15)⇒岡崎市民病院駐車場(17:00)解散

概念図



日誌

1日目

高鷲スノーパークは本日オープンということだ。すでに駐車場にはたくさんの車が停まっていた。カラフルなウェアの若者たちを横目にゴンドラに乗る。林道は前日までの雪がたくさん積もっていた。5パーティが連なって歩く。当パーティは最後尾であったためすでにトレースがしっかりできており、前半は歩きやすく、晴れた空の下周りの景色を楽しみながらの歩行となった。ラッセルの番が近づくと積雪は私の膝よりかなり上まで積もっており、私は雪に慣れていないため、キックステップの要領が掴めず急な登りがうまく登れない。何度も失敗する。焦らないことを心がけてようやく登れた。1番手にかなり離されてしまい、先頭に追いついた時には汗びしょりでぐったりしてしまっていた。みかねたリーダーに先にラッセルしてもらおう。私のラッセルは数mで終了となる。足がうまく上がらないのと、雪を踏む力が弱くなかなか前に進めなかった。昼からはアイゼンを装着しての歩行訓練を行い、ビーコンを雪中に埋めて捜索訓練を行った。ビーコンは特性をよく理解していないと性能を発揮できないということで、限られた時間で使用するために重要な道具ではあるが、そればかりには頼るだけでは救出できないということがわかった。

2日目

朝から雪が降っていた。下山時まで雪が止むことはなかった。埋没体験は雪訓での楽しみのひとつであった。しかし実際体験してみると雪の重みによる圧迫感と息苦しさは初体験で、外からの救出の声はかすかで、それに応える自分の声が相手には聞こえない恐怖を体験することとなった。滑落停止は相手に身体的負担をかけずに停止させることに重点が置かれたが、力の加減がうまくいかず不安が残った。雪上でも確実な安全確保を行うためのピッケルを使ったアンカー構築方法は道具の用途の広さに感心した。ピッケルを使った滑落停止訓練は実際に起こりうる可能性が多いということ、また道具の扱いにも細心の注意が必要であるということも積極的に取り組んだ。その他、救助者搬送の講習は、雪崩から救い出しただけでは救助とはいえず、こちらもとても勉強になった。訓練中に周りの方々の実際はこう転ぶ～などの体験談はとても参考になった。ワカン・アイゼンの装着方法、ザックがうまく背負えないなど山へ行く前に練習しておかないといけないことがあると感じた。下山はあっという間にゴンドラ降り場に到着してしまった。

感想

各訓練では事故が起こる状況、予防方法、そして対処方法を学び知識として得るだけでなく、体験できたことがなにより経験となった。雪山でのルールを学べたと思う。静かで美しい雪景色の中を歩くのは贅沢だった。1日目にうまく登れなかった場所は、下山時にはまた雪が積もって「雪のすべり台」となっていて、「ひゃっほーう」という気分だった。実際に言っていたような気がする。